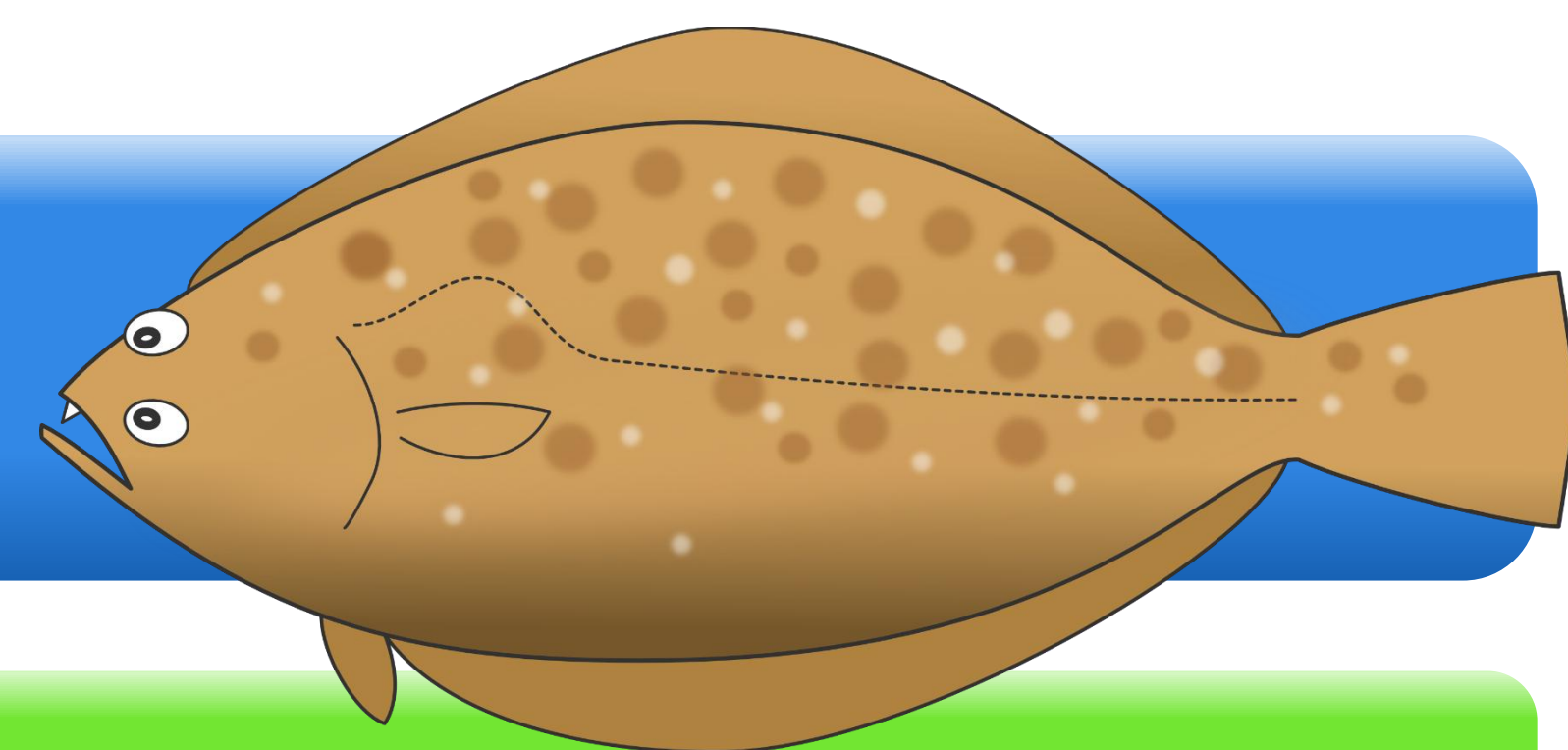


放射性物質の取り込みに関する飼育試験



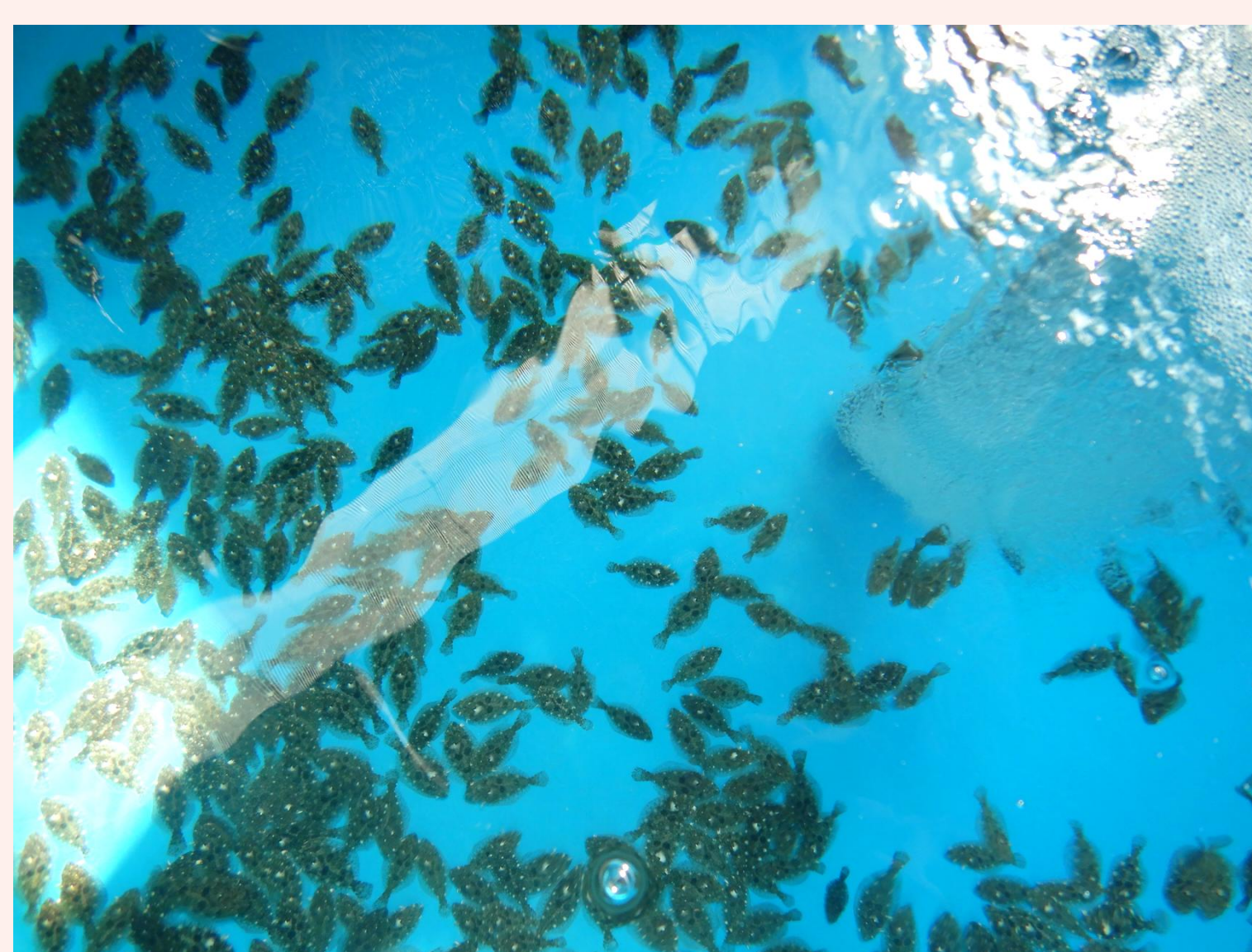
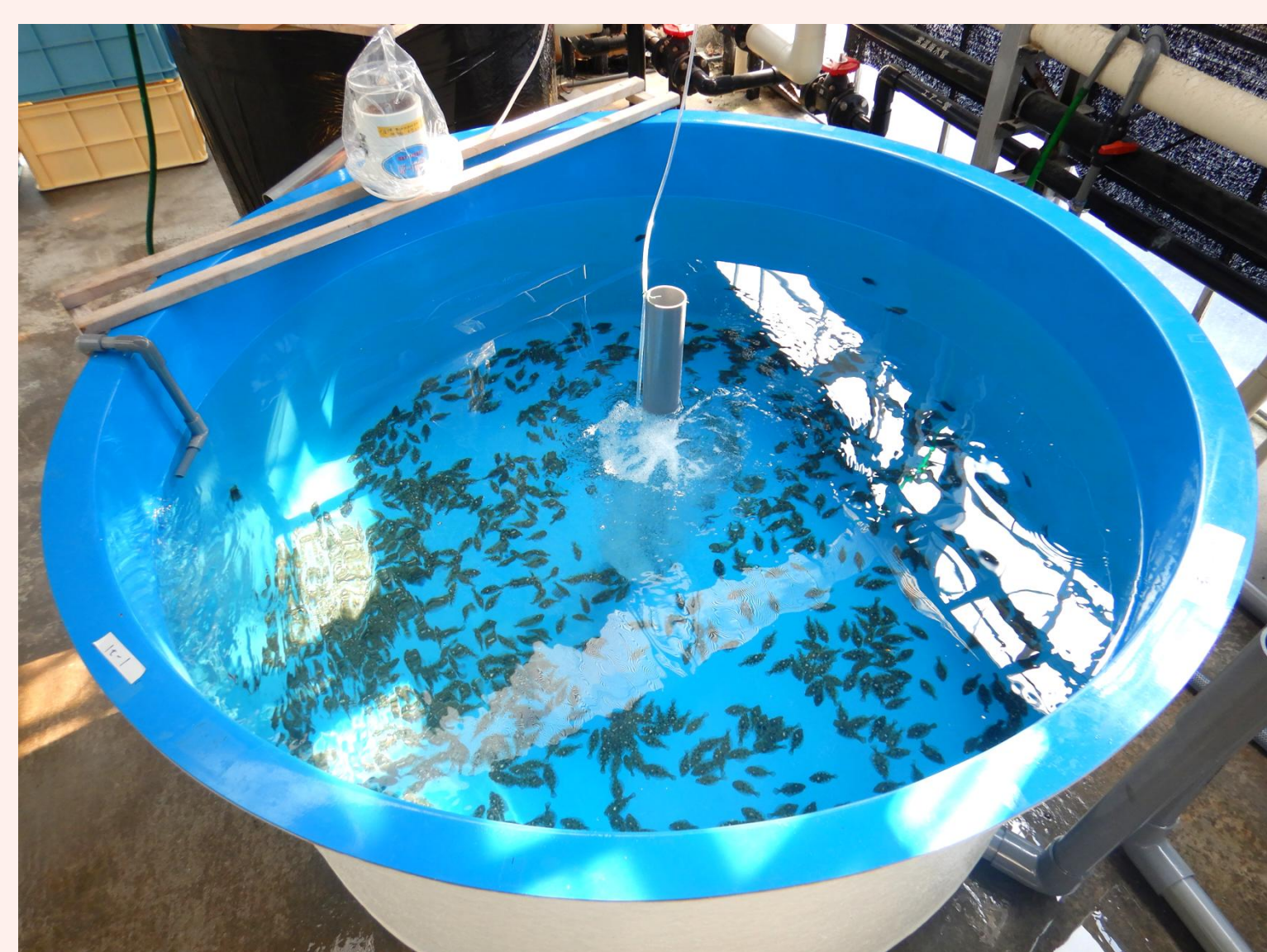
研究目的

- 本県沿岸域における魚介類の放射性セシウム(以下、放射性Cs)濃度は全体的に低下傾向にあるものの、蓄積する仕組みについては未だ不明な点があります。
- 本研究では、ヒラメを飼育し放射性Csを含んだ飼料を与えることで、餌から魚への放射性Csの取り込みについて調べ、魚介類に放射性物質が蓄積する仕組みについて知見を得ることを目的としています。

飼育試験の概要

【飼育】

- ヒラメ稚魚を水槽で飼育し、放射性Csを含む飼料(^{137}Cs 濃度を100Bq/kgに調整)を与えました。



^{137}Cs 濃度100Bq/kgに調整した飼料

【測定】

- 一定期間ごとにヒラメを5尾ずつ取り上げ、体重等を測定しました。



【分析】

- 定期的にヒラメを取り上げ分析することで、時系列の放射性Cs濃度を調べました。



ゲルマニウム半導体検出器

【結果】

- ヒラメの ^{137}Cs 濃度は、6週間後に32Bq/kg、19週間後に48Bq/kgとなりました。
- 現在、魚の餌生物の放射性Cs濃度は十分に低下していることから、自然環境下において餌からの取り込みで、魚の放射性Cs濃度が基準値(100Bq/kg)を超過する可能性は低いと考えられます。

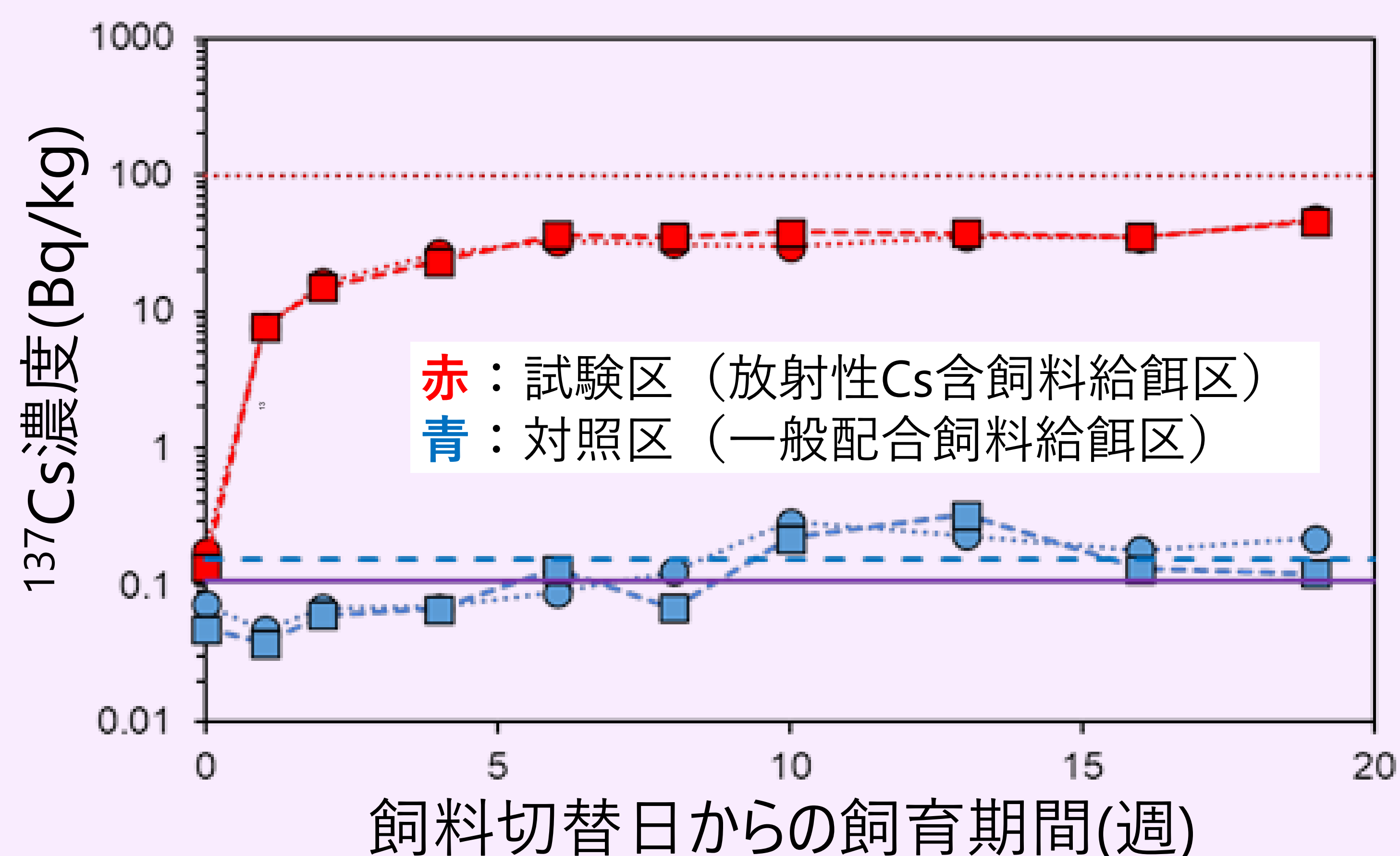


図 飼育期間における各試験区の ^{137}Cs 濃度